



医療法人 厚生堂

長崎病院

広報誌

2024.3

vol.

133

むつみ

当院の理念

私たちは良質で安心な医療の提供により、患者様や家族の皆様との信頼を築き、常に「思いやりの医療」を念頭に、地域社会に貢献します。

目次

「こうげんびょう」……………	1	人間ドックで健康チェック……………	3
成人のワクチン……………	2	お知らせ……………	4

「こうげんびょう」

内科医師 熊谷 和彦

「こうげんびょう」とは

「こうげんびょう」という病名の漢字表記では「高原病」という文字を連想される方が多いようですが、正しくは「膠原病」と記されます。

膠原病は、単一の病気ではなく、いくつかの共通点をもつ病気を総称したものの（疾患群）です。膠原病には、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、結節性多発動脈炎などの病気があります。さらに、膠原病の類縁疾患といわれるものもあり、これらを含めると非常に多数の疾患があります。

膠原病は難病というイメージの強い病気ですが、個々の疾患や同じ病気でも個人個人により病状や経過が全く異なりますので、最初にできるだけ詳しく検査し、病状を十分に確認した上で治療方針を決定します。

膠原病の症状

膠原病の大きな特徴は、「全身性」の病気であるということです。「全身性」とは、全身のほぼすべての臓器（皮膚、関節、肺、筋肉、心臓、神経、消化管、肝臓、骨髄、など）に障害がおこりうるという意味です。そのため、病状・症状は非常に多彩で、膠原病の診療には内科だけではなく他の様々な診療科による診療も必要になります。

レイノー症状またはレイノー現象

外気温度の変化（特に寒冷の刺激）などにより一時的に手足の指先の皮膚の色が白～紫～赤と変化する現象のことで、数分から20分程度で回復する。特に強皮症などの膠原病にみられやすい症状の一つです。



共通してよくみられる症状としては、関節症状（痛みや腫れ）、倦怠感、微熱、様々な湿疹、寒冷刺激で手足の先が白くなるレイノー症状などがあります。これらの症状があり改善しない場合は、一度、専門医に相談される方がよいでしょう。

膠原病の検査

膠原病は、自己免疫疾患とも呼ばれ、病気の成り立ちにある種の免疫異常が推測されています。この免疫異常を反映する検査の一つが種々の「自己抗体」検査ですが、自己抗体検査は絶対的なものではなく、あくまで参考の一つにしすぎません。自己抗体検査が異常（陽性）でも、身体所見の異常や症状がなければ膠原病の診断にはあてはまらないことがおおく、実際にそのような例（検査のみの異常）は珍しくはありません。最近では一般の健康診断などで自己抗体の一つである「リウマトイド因子」などが検査されることもありますので、その結果の解釈には注意が必要です。



膠原病の経過

膠原病の経過は、急性から慢性的な経過まで疾患、個人により様々です。関節炎や間質性肺炎などがみられる「関節リウマチ」、口腔乾燥やドライアイなどがみられる「シェーグレン症候群」、手指などの皮膚が硬くなり循環障害などがおこる「強皮症」では年余にわたる慢性経過を呈します。手指の冷感ではじめて膠原病科を受診された80歳過ぎの患者さんが、発症から数十年は経過していたであろう強皮症であったことに驚いたことがあります。その患者さんは、多少の不便を感じてはいるものの、日常生活は特に問題なく過ごされていました。長年にわたる口腔乾燥感をたまたま調べたところシェーグレン症候群であったというケースなども珍しいものではなく、このような潜在的な膠原病の患者さんは相当数存在するだろうと考えられています。膠原病は、一般の方が思っている以上に身近な病気かもしれません。

